

車いす技術講習会

神奈川工科大学車いす修理屋（KWR）

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野 1030 神奈川工科大学内

助成事業の概要

目的は3つある。1、スリランカにコンテナ船で送った車いすを点検、修理、輸送により不具合があるか情報収集すること。2、現地スリランカボランティアの方に修理技術を伝え、現地の方々のみで修理ができるようにすること。3、車いす利用者に車いす適合を行った上で車いすを寄贈すること。車いすの正しい使い方をすることで、骨の変形など今後の生活に支障をきたすような副作用を防止する。

今回は、8月17日（日）－8月21日（木）にスリランカで実施。活動内容は、日本、スリランカ、韓国のボランティアが集まり、現地で車いす修理を行った。スリランカには140台寄贈しました。

活動2日目に、実際に利用者へ車いすを寄贈した。総勢で約50名の利用者に寄贈しました。その際FWSが中心となり約50名に車いす適合をし、利用者に合う車いすを寄贈しました。

事業の成果

車いすはコンテナ船で輸送した140台と当日持参した13台を全て寄贈できました。現地の方への修理講習は、ジェスチャーや通訳によって、修理の方法を教えました。

活動2日目は、車いす利用者、またはその身内の方も含めて総勢100人は越える人達が会場に来ました。初めて車いすに乗る方がとても多く、車いすを目の前に感激をする方が多くいました。

利用者の使用環境、身体状況に適応した車いすの選択及び身体への適合評価を行い、約50名の方々に渡すことができました。

適合評価の際は、アンケートのようなものを使用しました。言語の壁がありましたが、通訳を通じて車いすの使用方法を伝えたり、ジェスチャーを使ったり、片言の英語で話したり、精一杯適合をしました。

車いすを初めて使用する方にとっては、どのような車いすでも受け取りたいという気持ちが大変強いということを感じました。しかし、不適合な車いすは利用者に渡したくないと、私達は考えています。何故なら、身体に合わない車いすを使用することで、さらに病気が悪化したりするからです。

一例として、片足の無い方が車いすを乗り続けることで足の筋肉が弱くなってしまふ恐れがあります。そのような方には、車いすを長く乗り続けないようにと伝えています。

本プロジェクトは、高校生は勿論、輸送会社や現地のボランティアの方々など多くの方が関わっています。私達大学生ボランティアは、工業高校生に修理技術を伝えること、彼らが一生懸命清掃した車いすを、無事に利用者まで届けられるように活動しています。

さらに、現地まで赴いて、実際にどのような方に届いているのか調査をする。今回のように一人でも多くの方が身体に合う車いすに乗れるように活動しています。

現地の環境を実際に見たり、体験したりすることでプロジェクトの参加者は、この活動を継続す

ることの必要性を感じ、また寄贈後のフォローや適合の難しさなど今後の課題も実感できた。

直接利用者の車いすを適合することで、その方の生活を少しでもサポートすることが出来るのではと考えています。

■ 成果の広報、公表

- 1、スリランカの活動の写真を全社協アジア研修生の方々（韓国、タイなど）に配信。
- 2、新潟医療福祉大学 FWS は、11 月に学会で発表。
- 3、神奈川工科大学 KWR は、11 月の学園祭で発表。
- 4、11 月 29 日に都立北豊島工業高校で発表。（都立蔵前工参加）
- 5、12 月に韓国（ソウル、釜山）を訪問して発表。
- 6、KWR の Facebook ページにて活動写真掲載。

■ 今後の展開

病院で質問したデータを集めて今後の諸外国で活動する際、どのような車いすを求めているのか、患者の症状の割合など、適合の参考になるようにしたいと考えています。

従来活動では、車いすの修理と寄贈のみを目的としていたが、今回は適合までを目的をしたことで今後のプロジェクト活動の目的を大きく変えることができました。

私達が実際に車いすの適合を行うことで、利用者の今後の生活に支障をきたすような新たな病気を防止することができます。これにより、ただ単に車いす寄贈するよりも、さらに意味のある「寄贈」ができるのではないかと考えました。

今後も利用者の属性と車いすの種類データを収集し、諸外国での活動において、現地で必要とされている車いすの種類や属性を認識することができます。

まだまだ、アジアもしくは世界では車いすが必要とする人がいます。私達が実際に現地へ赴き、